

田原本町スケートボードパークを運営委託

県ローラースポーツ連盟 実本代表理事に聞く

カルチャーからスポーツへ

―田原本スケートボードパークについてお聞かせください。

3年ほど前に初心者向けのスケートボード施設として改修しました。県内では唯一の公営スケートボードパークになります。年度間で約6000人にご利用いただいています。普及に向け町と連携しながら、安全安心のもと県ローラースポーツ連盟が施設を運営しています。

―スケートボード競技についてお聞かせください。

スケートボードやスポーツクライミング、BMXという自転車のフリースタイル。あとはバスケットボールの3オン3など、こういう都市型

のスポーツなどをアーバンスポーツと呼ぶのですが、こういったものが今若者に人気でスポーツ化しています。

アーバンスポーツの中で、特に今回はスケートボードが、オリンピックで初開催され、さらに金メダルを取ったこともあり、かなり注目を受けています。

―スケートボードパークが公園や路面と比べて違うところは。

今回オリンピック種目になったスケートボードには、ストリートスタイルとパークスタイルという2つの種目があります。ストリートスタイルは階段でジャンプしたり、すりすりを滑り降りたりといった技があります。対して、パークスタイルは腕状のボウルを活かして技を競うものになります。

―施設では、フラットのスペースを用意しています。一般の道は砂利や小石などがあり、そのせいでこけることも多々あります。しかし、ここではスケートボードに適したコンクリートとして、小石一つも落ちていないほど綺麗に整備されています。今後、ストリートスタイルをやりたいという人が、技の練習を出来るファーストステップになります。

また、ハーフパイプがあります。これはフンページというんですが、このランページもパークスタイルという種目の基礎となるものです。

今後、例えばオリンピックを見て「かっこいいな」と思った人が、ここでストリートスタイルやパークスタイルの基礎となる練習をすることが出来ます。

―ストリートスタイル競技を見る上でのポイントや見所は。

得点となるものとしては2つあります。「フロン」という45秒や60秒という限られた時間でこけずに色々な技を使います。2つ目に「トリック」という1つの技を5回行います。

何が得点になるかというところは、実はスケートボードのジャッジシステムは曖昧なものになっていて、何が何点というものはありません。その中で確実に得点がとれるものが、きき足と反対のスタンスで技を出すものになります。

「レギュラススタンス」というポイントに対して左足を前にするパターンと、「グーフイースタンス」という、右足を前にするパターンがあります。だいたい、自分のメイン

スタンスとなるものと逆に入れ替える「スイッチスタンス」で行った技などは、かなり得点が高くなります。

今回、オリンピックで金メダルを獲得した堀米雄斗さんでいうと、自分が得意にしている足でない方で技をしていたこと、あと、回転技として自分とスケートボードが回る、スケートボードだけが回る、スケートボードだけが縦や横に回転する。これも得点が出やすいものです。自分が回るだけではなくて、メインスタンスとは逆で技をする、その複合が堀米さんが強いところでした。

―スケートボードを始めた

その後は、「チックタック」というボードを左右に動かし前へ進んでいく必要があります。最初から動いている状態であるので、止まっている状態でスケートボードを上げたり下ろしたりという動作を覚えてから、ゆっくりスピードを出していきます。また、自分のきき足に対して内側にボードを動かす時はよく見えてるので動かしやすいですが、その逆は死角になるため自分が思っているより振れている場合が多いです。真ん中に対してしっかりと、左右同じくらい振ってあげるといいです。後輪



利用者の声

50歳代男性 この施設ができるまでは近くの公園でやってきました。ここはハーフパイプがあり、最初は怖く、止まれるようになるまで半年かかりましたが、できたときはほぼ毎日来ていました。今の高齢者にはあまりイメージが良くない部分もあるからなかなか広がらないのかなと思うけれど、オリンピックを期に変わってもらえれば。

14歳男性 1年半ほど前にスケボーの雑誌を見て、かっこいいと思って始めました。これまで公園などストリートで走っていて、ここを利用するのは今日が初めてです。ハーフパイプは初めて滑り、怖いけど楽しいです。スケボーは遊びで始めて、漕ぐだけだったり坂をすべったりしてました。今後は映像として残せるようになるぐらいに練習したい。

とまった時には、まず何から始めたらいいですか。

まずはやっぱり走れるようにならないといけないので、滑走力を高めることが必要です。滑走力を高めるためにはまず基本となるのが「フッシュユ、漕ぐことですね。片足をボードに乗せて反対の足で地面を蹴り、そしてスケートボードの上に乗れることが最初の段階になります。

―スケートボードに違いはありますか。

一番の違いはタイヤの硬さです。昔から使われているものはタイヤが軟らかく、路面が多少悪いところでも滑ることが出来ます。一方で硬いものは、より加速することが出来るため、スポーツとして見た時は硬いものを選びます。路面の状況が悪い所では危ないですが、競技用の施設などではしっかりと整備されているので、昔と比べると圧倒的に硬くなりスピードが出しやすくなっています。

―これからスケートボードの展望は。

昔は競技ではなく、自分が楽しめればいいという側面がありました。しかし今の子どもたちはスポーツとして入るといった、昔のカルチャーからスポーツに転換している時期になります。ファッションとしてかっこいいとしている人もいますが、これからはスポーツとして、今までと違うアプローチをしていく人が増えてくるかと思っています。

―技を練習したいとなった時には。

スケートボードさえあればどこでもできるものです。ですが、道路などでは車と接触する可能性もあるので注意が必要です。実際そういった事故も発生しています。もう一つ、騒音の問題や器物破損



田原本町スケートボードパークでは、初心者向けの練習用として、フラットのスペースを用意しています。また、ハーフパイプやパークスタイルの練習用として、小石一つも落ちていないほど綺麗に整備されています。今後、ストリートスタイルをやりたいという人が、技の練習を出来るファーストステップになります。



田原本町スケートボードパーク 【所在地】磯城郡田原本町平田46【休場日】毎週月曜日(祝日の場合は開場、次の平日が休場日)、年末年始(12月28日～31日、1月1日～4日)【開場時間】土日祝日、町の小中学校の春夏冬休みは午前9時から午後7時まで・その他は午後1時から午後8時まで。スケートボードスクールの時間帯は、一般の利用が出来ない。【使用料(1日)】田原本町、広域定住自立圏内(天理市、川西町、三宅町、山添村)は300円。それ以外は600円